

世帯と人口

(8月1日現在)

|    |          |        |
|----|----------|--------|
| 世帯 | 43,434   | (+ 63) |
| 人口 | 117,790人 | (+ 96) |
| 男  | 60,388人  | (+ 63) |
| 女  | 57,402人  | (+ 33) |

# 広報えびな

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

\*この広報は再生紙を使用しています。

## 都市とつながる田

21世紀へ前進する海老名⑳



交通の重要な拠点である海老名駅。そこから南へ歩いて10分足らずのところに広がる田んぼ。作業をするトラクターの後ろで、コサギがえさをついばむ。緑色が黄金色へと輝きを変えるのも間近です。私たちの心をほっとさせてくれる、当たり前のようで当たり前でない大切な光景。新しい世紀にむけて、田の果たす役割とは―。

### ■産業としての田

海老名市の農地はおよそ6000ヘクタール(市の面積の約24%)。そのうちの半分が水田で、年間の生産量はおよそ11200トンを誇る。

間宮一夫さん(大谷、60歳)は10代半ばから稲作と向き合ってきました。「海老名の米は昔から低農薬だよ」と胸を張ります。去年からは直売も始めました。

「お客さんの声がかじかに聞けるのが良いですね。新米を普段どおりに炊いて失敗した(新米は水分が多いので1割程度水を少なくして炊くのだそうです)方が『ああ新米だ、と実感しました』と打ち明けてくれたり、『地元で買うと安心。おいしいからもっとたくさん作って』と言ってくれるときはうれしいです。やりがいがある」。

課題は高齢化と後継者不足への対応です。「もっと収益が上がるように作業の合理化、効率化を進めていかなければと考えています。それが課題の解決に結びつくのでは」。

### ■環境・防災にも一役

田には、米を収穫する以外にいくつもの役割があります。水田に入った水は土を通りぬけることで浄化されそれが地下水などとなって私たちにきれいな生活用水を提供しています。また、かんがい排水施設によって、干ばつを防いだり、洪水を防いだりして、防災面でも一役買っています。さらに、稲には気温を下げる働きがあります。田のそばでひんやりと感じられるのはこのためです。

そして景観面。昨年の市民意識調査によれば、4割近くが海老名の緑豊かな自然環境に魅力を感じ、その保全と整備を希望しています。田園風景が多く市民にやすらぎを与えてくれているのです。

### ■農地は「もっついの顔」

市では、第三次総合計画の後期基本計画が来年スタートします。その中で、農地を海老名のもっついの顔と位置づけ、市民にとっても財産である田園景観の保全や、農業経営の一層の向上を目指しています。

主食であるお米。心なごむ風景。私たちは心と食の両方で、ふるさとの美しい田とつながっています。海老名の田を慈しみ、米を食べることは、これからの稲作、そして農業を支える大きな力の一つになると思います。

